

学生の興味関心引き付け

県道路メンテナンス会議
橋梁老朽化対策 学習会開く

福井県道路メンテナンス学習会を開催し、橋梁の

ス会議は12日、建築・土木系の学生約80人を集め、

老朽化対策の重要性を学習も通して紹介した。

となった。

学習会では、まず県コンクリート診断士の石川裕夏会長がコンクリート

構造物の基本的な劣化メカニズムを話した。地元福井の3大劣化はアル

カリ骨材反応と塩害、そして凍害が起因し、その劣化も早期(施工時など)と経年(供用後)に大別

されるが、早期にきちんと対応しなければ経年を呼び込む危険性を指摘。老朽度を測る打音調査では「キンキン」や「コンコン」は異常なし。とこ

るが「ポコポコ」や「ペコペコ」ならうき状態が危惧され、かりに剝離があれば人命に関わるため要注意と強調した。

続いて次世代社会インフラ用ロボットの「視る・診る」をジブシ調査設計の毛利茂則社長が説明。開発動機は今後新設改築から維持管理に移る時代の流れを先取りし、5年に一度の近接目視を基本とする法改正にも対応する技術的な改善点をを紹介。この後、学生たちは4班にわかれ実習に臨み、打音調査・ひび割れ調査や非破壊検査による鉄筋探査(電磁波レ

ーダー法など)、中性化試験ドリル法、ASRゲルステイン法などを熱心に学んだ。県立図書館で。



建築・土木系の学生たち約80人が打音調査などを実習

参加した福井大学と福井工業大学、福井高専の学生にとつては普段の授業ではなかなか触れる機会の少ない分野だけに、今回の分かりやすい説明を受け、興味や関心を高めるいい機会

めるといふ。この後、学生たちは4班にわかれ実習に臨み、打音調査・ひび割れ調査や非破壊検査による鉄筋探査(電磁波レ

ーダー法など)、中性化試験ドリル法、ASRゲルステイン法などを熱心に学んだ。県立図書館で。